



サルのおしりはどうして赤い^{あか}の

おしりが赤い^{あか}のは、おとなのしるし

世界中^{せかいじゅう}に、いろいろなサル^{なかま}の仲間^{なかま}がいますが、顔^{かお}とおしり^{あか}が赤いサルは、ニホンザルとマントヒヒくらいです。ニホンザルのおしりの部分^{ぶぶん}には、毛^けが生えていません。ここに、血液^{けつえき}がたくさん流れるようになると、赤^{あか}くなって見えます。

ニホンザルのおしりが赤い^{あか}のは、サルがおとなになったしるしです。赤ちゃんザルや、2~3才^{さい}の子ザルのおしりは、まだ赤^{あか}くなっていません。オスもメスも、交尾^{こうび}して赤ちゃん^{あか}を産むことができるような年^{ねん}れいになると、おしりが赤^{あか}くなってくるのです。とくに、赤ちゃん^{あか}を産めるように、準備^{じゅんび}ができたメスのおしりは赤くふくれ上がり、それを目印^{めじるし}にオスがよってきます。

赤いおしり^{あか}で、仲間^{なかま}を見分ける^{みわ}

ニホンザルの赤いおしり^{あか}は、おたがいに同じ仲間^{おな なかま}であることを見分ける^{みわ}しるしです。また、元気^{げんき}のいい強いサルほど、おしりや顔^{かお}の色は真^まっ赤^{あか}です。ですから、赤いおしり^{あか}は、仲間^{なかま}に「自分^{じぶん}は強いんだ」ということを示^{しめ}しているわけで、群^{むれ}のボス^{とくべつ}は、特別^{とくべつ}、顔^{かお}もおしりも、真^まっ赤^{あか}なはずです。（監修・今泉 忠明）

